

■内田康哉 外交官。エポック毎に重要な役割を演じ、〈満州事変〉後は、国際的孤立化の“内田焦土外交”。

うちだこうさい

薩摩藩士密航1865＝ 肥後国八代郡和鹿島村(熊本県八代郡竜北町)に生まる。

明治維新・・・1868＝ 3歳：

明治6年政変 1873＝ 8歳：

佐賀の乱・・・1874＝ 9歳：

明治14年政変1881＝16歳：

岩倉具視没・1883＝18歳：

国民之友始・1887＝22歳：_帝国大学法科大学政治学科卒業，直ちに外務省に入省，

交際官試補・取調局勤務を経て，在ワシントン日本公使館在勤，陸奥宗光公使の知遇を得た。

帝国憲法発布1889＝24歳：

帝国議会始・1890＝25歳：陸奥に従って農商務省に勤務したが，

大本教・・・1892＝27歳：

郡司千島探検1893＝28歳：再び外務省に戻り，在英公使館3等書記官となり，

日清戦争始・1894＝29歳：

その後，清国在勤を経て，

本省勤務後，

田中正造直訴1901＝36歳：*清国公使となり，

_日露戦争前後，満洲に関する露清同盟密約の情報探知，満洲に関する日清協約の成立に努める。

日露戦争終・1905＝40歳：

満鉄発足・・・1906＝41歳：清国公使を免ぜられ，

韓国反日暴動1907＝42歳：オーストリア大使兼任スイス大使に任命さる。

伊藤博文暗殺1909＝44歳：_米国大使となりワシントンへ赴任すると，

_移民問題をめぐって米国の一部に流布した日米戦争に関する浮説の一扫に努力し，

韓国併合・・・1910＝45歳：

大逆事件判決1911＝46歳：_日米通商航海条約に調印後，帰国して第2次西園寺内閣の外相に就任，清国に勃発した辛亥革命に対処，

明治天皇没・1912＝47歳：_ロシアとの間で，満洲の勢力範囲分界線延長，内蒙古を東西の勢力範囲に分割した第3回日露協商を成立。

民本主義・・・1916＝51歳：_ロシア大使に任命され，

ロシア革命・1917＝52歳：_ペトログラードに着任したが，直後に二月革命勃発，日本政府を代表して露国仮政府承認の公文を提出，

十月革命によりソビエト政府成立，治安険悪となり本省の命により，

本格政党内閣1918＝53歳：_帰朝，原敬内閣の成立とともに外相として入閣，シベリア出兵には，ボルシェビキ政権永続の可能性，ロ

ムリヤ条約・1919＝54歳：_パリ平和会議，

原敬首相暗殺1921＝56歳：_ワシントン会議に対処した。*原首相暗殺で他の閣僚とともに，外相を辞任し，

治安維持法・1925＝60歳：_枢密顧問官となるが，

共産党事件・1928＝63歳：_パリ不戦条約会議全権として渡仏，署名した不戦条約文中の字句「其ノ各自ノ人民ノ名ニ於テ」が日本憲法に抵触し，国体の根本観念に相反すると国内で問題となり，責任をとって枢密顧問官を辞した。

満州事変・・・1931＝66歳：*南満洲鉄道会社総裁となり，柳条湖事件に遭遇，関東軍をはじめとする“現地の空気”に同調して，本国へ積極策採用の意見具申に上京。

五一五事件・1932＝67歳：_軍に推されて3たび外相に就任，第63帝国議会で満洲国承認問題に関し，政友会の森格議員の質問に「国を焦土にしてもこの主張を徹することに於ては一步も譲らない決心」と答弁し，ジャーナリズムが大きく取り上げたため，“内田焦土外交”の異名で呼ばれるに至った。その後，満洲国承認，

国際連盟脱退1933＝68歳：*国際連盟脱退に対処するが，健康を害して辞職し，

二二六事件・1936＝71歳：_没した。